The Shoto Museum of Art

開館二十五周年記念特別展

骨董誕生

日本が愛した古器物の系譜

唐津盃「虫歯」（青山二郎旧蔵）

平成18（2006）年5月30日（火）～7月9日（日）

開館時間：午前9時―午後5時（入館は4時30分まで）　休館日：6月5日（月）、12日（月）、19日（月）、26日（月）、7月3日（月）

入館料：一般300円（240円）、小中学生100円（80円）（　）内は10名以上の団体料金、60歳以上の方および障害者の方は無料、毎週土曜日は小中学生無料

渋谷区立松濤美術館

東京都渋谷区松濤2-14-14　〒150-0046

TEL03-3465-9421 FAX03-3460-6366

開館二十五周年記念特別展

骨董誕生

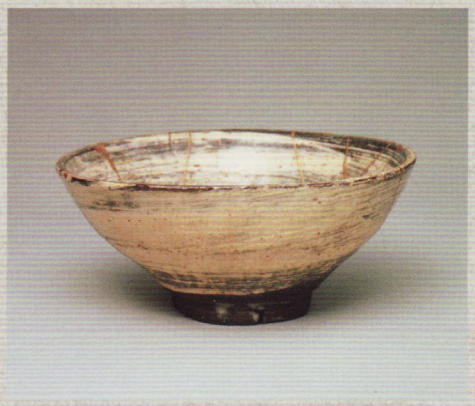
日本が愛した古器物の系譜

骨董という言葉に、どのような印象をお持ちになるでしょうか？なにやらカビの生えかかった、古めかしいイメージを思い浮かべる方が多いかもしれません。一方、骨董を生活空間に取り入れて、安らぎやぬくもりを演出したいと考える人も、徐々に増えつつあるようです。

我々が日常生活で見かける美しい器物は、人の技術を尽くして完璧な形や色を追求したものと、完璧にこだわらずに自然の風合いを残した「味もの」の二種に、大別できるように思われます。完璧を誇るものの美しさは分かりやすいものですが、形の歪みや色ムラやシミといった「味（景色）」に情趣を感じるのは、少し高級な趣味と言えるでしょうか。骨董は古物一般について使われる言葉ですが、この展覧会では、そのような味ものに限って、「骨董」と呼ぶことを提案したいのです。

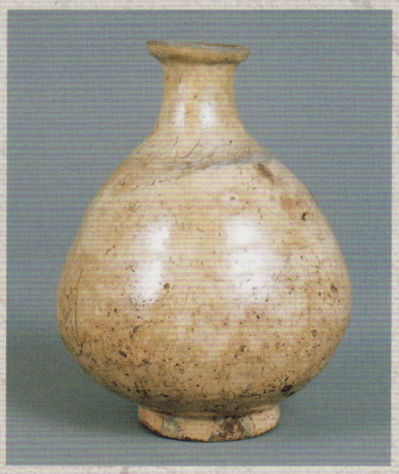
我が国における器物鑑賞は、完璧なものを敬遠し、味ものを愛でるわびの美学を中心に据えてきた歴史があります。明治時代までは茶道具に限定されたものでしたが、その後欧米から器物をアートとして鑑賞する流儀を学び、用のために生まれた雑器の美しさに気付いた柳宗悦によって新たな方向性を与えられて、味ものを愛でる美学は新たな段階を迎えます。古器物の持つ「味」を選び抜いて、その蒐集に自己を表現する「骨董」が確立したのです。大成者は希代の陶磁器鑑賞家として知られる青山二郎（1901～1979）。昭和十年代のことでした。

この展覧会では、青山や小林秀雄らによって確立し、戦後白洲正子や安東次男らに受け継がれた「骨董」の歴史を、ゆかりの品によってたどるとともに、現代の数寄者のコレクションもまじえて、「骨董」の神髄を探ります。

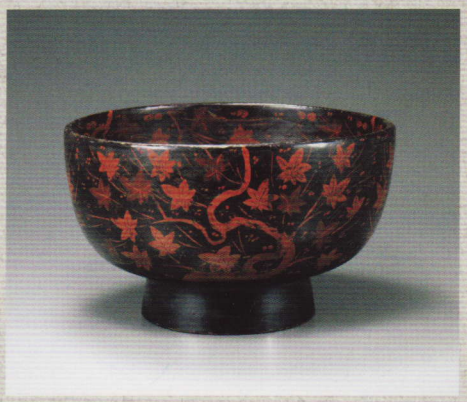


刷毛目茶碗「残雪」（細川家伝来、永青文庫蔵）

漢銅鐸（安東次男旧蔵）



粉引徳利「酔胡」（浅川伯教、松永耳庵、青山二郎、小林秀雄旧蔵）



楓漆絵鉢（白洲正子旧蔵）

白釉黒地白花牡丹文枕（横河民輔旧蔵、東京国立博物館蔵）

Image:TNM Image Archives Source:http://TnmArchives.jp/

【構成】

Ⅰ 骨董への道程

1・わび茶の革命
2・茶の湯の名物
3・鑑賞陶器の紹介
4・民藝の発見
5・骨董誕生
6・骨董の普及
7・使う骨董、見る骨董

Ⅱ 骨董様々

Ⅲ 骨董最前線

記念座談会

「楽しきかな骨董！」

●6月10日（土） 午後2時～

青柳恵介（古美術評論家）、尾久彰三（古民藝研究家）、坂田和實（古道具商）

ギャラリートーク

●6月2日（金） 午後2時より 担当学芸員
●7月7日（金） 午後2時より 担当学芸員

美術相談

●6月3日（土）午後2時～4時
講師 茂登山東一郎（油彩）、舟橋淳司（水彩）
●7月9日（日）午後2時～4時
講師 佐久間公憲（油彩）、水野道子（水彩）

美術映画会

●6月11日（日）午後2時～3時
学問と情熱シリーズ「小林秀雄」、美術のみかた「透視画法」
●7月1日（土）午後2時～3時
京都の魅力「茶の湯」、美術のみかた「近代の人間像」

日曜午後のコンサート

6月18日（日）午後2時～4時
出演:川上さとみトリオ
曲目:「星に願いを」「クレオパトラの夢」ほか

次回展予告

7月25日（火）～8月27日（日）
ポーランド国立ウッジ美術館所蔵
「ポーランド写真の100年」展

渋谷区立松濤美術館
THE SHOTO MUSEUM OF ART
東京都渋谷区松濤2-14-14 TEL 03-3465-9421
渋谷駅下車徒歩15分、京王井の頭線神泉駅下車徒歩5分
http://www.city.shibuya.tokyo.jp/